

令和4年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立豊郷南小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和4年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和4年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 理科, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 理科, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 101人

② 算数 101人

③ 理科 102人

5 留意事項

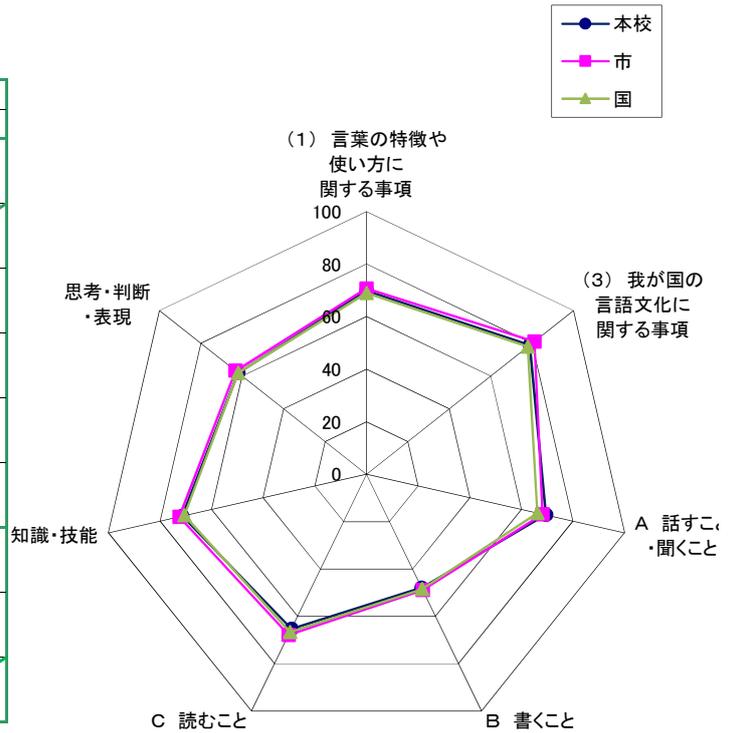
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立豊郷南小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	69.9	70.7	69.0
	(2) 情報の扱いに関する事項			
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	78.9	81.1	77.9
	A 話すこと・聞くこと	69.5	68.2	66.2
	B 書くこと	47.9	48.9	48.5
	C 読むこと	65.3	67.9	66.6
観点	知識・技能	71.4	72.5	70.5
	思考・判断・表現	62.0	63.2	62.0
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

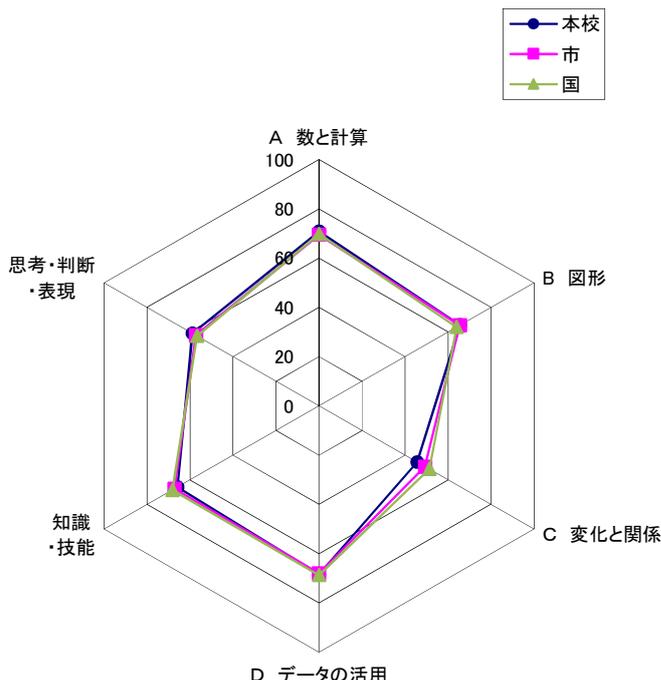
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使いに関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は、69.9%で国、市の正答率とほぼ同じである。 ○「言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることを捉える」問題では、正答率が71.6%で全国平均より3ポイント高かった。 ●「漢字を使って書き直す」問題では、全国平均と同程度の約65%であったが、無解答が20%の問題もあった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りの場面などで自分たちの話し合いの様子を確かめる活動を設けることで、言葉には相手とのつながりをつくる働きがあることを捉えられるようにする。 ・漢字練習と小テストを繰り返す行くとともに、朝の学習等を利用して既習漢字を使った文を書かせるなどし、定着を図る。また、一人一台端末のAIDリルを効果的に活用する。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は、78.9%で国、市の正答率とほぼ同じである。 ○「漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書く」問題では、正答率が78.9%で、全国平均とほぼ同じであった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読みやすい文や文章を書くためには、点画の書き方や文字の形に注意しながら、筆順に従って丁寧に書くことや、漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くことが大切であることを書写の時間だけでなく、すべての教科の学習において継続的に指導する。
A 話すこと・聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は、69.5%で国、市の正答率とほぼ同じである。 ○「互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめる」問題では、正答率が52.6%で、全国平均より5ポイント高かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合い活動においては、互いの立場を尊重して話し合いを進めることができている。引き続き、学級会活動や委員会活動でも話し合う目的や必要性を意識して話し合いが進められるような場を設定していく。 ・異なる意見を自分の考えに活かしてまとめられるよう「～という意見もあったが」などの表現を話し合いの中で用いることができるよう適宜指導していく。
B 書くこと	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は、47.9%で国、市の正答率とほぼ同じである。 ●「文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つける」問題では、全国平均とほぼ同じであるが、正答率が34.7%と低かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の文章のよいところとして「内容や記述などに見られる具体的なよさ」「書こうとしたことの明確さ」「文章全体の構成や展開の明確さ」などを見つけることができるように、系統的に指導する。
C 読むこと	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は、65.3%で国、市の正答率とほぼ同じである。 ○「登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉える」問題では、正答率が75.8%で、全国平均より7ポイント高かった。 ●「表現の効果を考える」問題では、正答率が50.5%で、全国平均より9ポイント低かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書やテスト等で文章を読む際に、自分で文章の要点を見つけられるように文章の中で要点となる部分に線を引く活動を継続して指導していく。 ・「何が書かれているか」という内容面だけでなく、「どのような書かれているか」という表現面にも着目して読むことができるように指導していく。

宇都宮市立豊郷南小学校第6学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	70.8	69.5	69.8
	B 図形	65.6	65.4	64.0
	C 測定			
	C 変化と関係	45.6	49.3	51.3
	D データの活用	68.4	68.0	68.7
観点	知識・技能	65.9	67.3	68.2
	思考・判断・表現	58.9	57.3	56.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

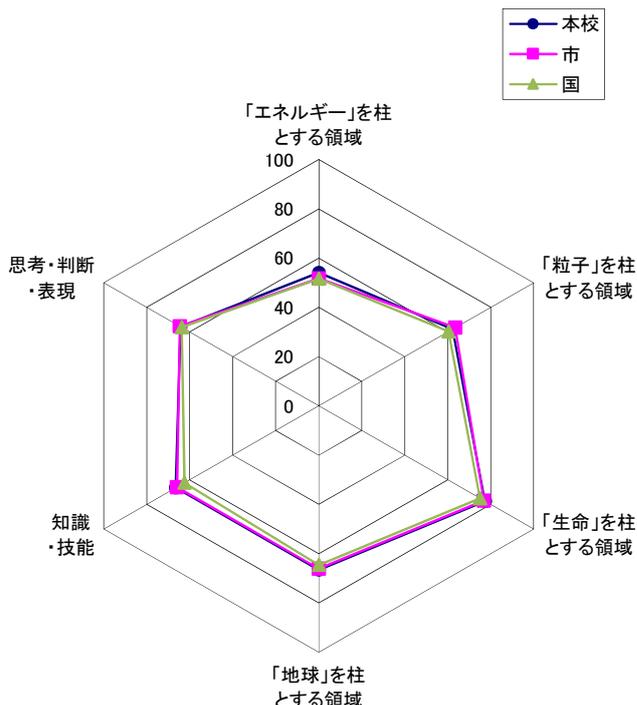
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は、70.8%で国、市の正答率とほぼ同じである。 ○「カップケーキ7個分の値段を、$1470 \div 3$で求めることができるわけを書く」問題では、正答率が81.3%で全国平均より5ポイント高かったが、無解答が6.3%あった。 ●「示された場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察する」問題では、全国平均とほぼ同じであるが正答率が34.4%であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・式を立て、その理由を言葉と数を用いて記述することができた。考え方をノートに記述したり、友達に説明したりする機会を多く設けてきた成果が見られる。しかし、無解答の児童もいるので、前述の取り組みを続け、全員が自分のノートに考え方を記述できるように指導する。 ・日常生活において、数の大きさを見積もる必要があるときは、目的に応じて数を大きく見たり、小さく見たりして概算できるように、概算する方法(切り上げ、切り捨て、四捨五入)が適切であるか判断できるように繰り返し指導する。
B 図形	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は、65.6%で国、市の正答率とほぼ同じである。 ○「示されたプログラムでかくことができる図形を選ぶ」問題では、正答率が61.5%で全国平均より4ポイント高かった。 ●「示されたプログラムについて、正三角形をかくことができる正しいプログラムを書き直す」問題では、正答率が全国平均とほぼ同じ51.0%であったが、角の大きさを間違ったり、無解答だったりが34.4%であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・正多角形の作図はプログラミング教材の一つで、一人一台端末を使って学習に取り組んだ成果が見られる。今後も作図の手順や図形を構成する要素に着目して、作図できるように指導していく。 ・作図する際の角の大きさや辺の長さを友達どうして説明し合う活動を多く取り入れることで、筋道を立てて説明する力を身に付けられるようにする。
C 変化と関係	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は、45.6%で国、市の正答率よりやや低い。 ●「百分率で表された割合を分数で表す」問題では、正答率が60.4%で全国平均を10ポイント低かった。また、類型されない解答が20.8%、無解答が7.3%であった。 ●「百分率で表された割合と基準量から比較量を求める」問題では、正答率が58.3%で全国平均より6ポイント低かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単位量当たりの問題が身近な問題として考えられるよう日常生活や他教科との関連を図りながら、数量の関係を基準量、比較量、割合の関係で捉えられるようにし、その数量関係を図や数直線に表せるよう繰り返し指導する。 ・基礎基本の定着を図るため、引き続き、計算ドリルや学習プリント、一人一台端末のドリル学習等を繰り返し行い、より速く正確に計算できるように指導する。
D データの活用	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は、58.9%で国、市の正答率とほぼ同じである。 ○「目的に応じて円グラフを選択し、必要な情報を読み取る」問題では正答率が69.8%で全国平均より3ポイント高かった。 ●「表の意味を理解し、全体と部分の関係に着目して、ある項目に当たる数を求める」問題では、正答率が69.8%で全国平均より5ポイント低かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会科や理科など他教科との関連を図りながら、必要なデータをグラフに表したり、情報をグラフから読み取ったりして統計的な問題解決の力を養っていく。 ・グラフによって項目の大きさの順番が異なることがあることに気付けさせるとともに最後まで問題文やグラフ等を見るように注意喚起する。

宇都宮市立豊郷南小学校第6学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	54.1	51.7	51.6
	「粒子」を柱とする領域	62.3	63.5	60.4
	「生命」を柱とする領域	77.3	76.8	75.0
	「地球」を柱とする領域	66.6	66.1	64.6
観点	知識・技能	66.5	65.9	62.5
	思考・判断・表現	64.3	64.6	63.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○ 良好な状況が見られるもの ● 課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は54.1%で国、市の正答率とほぼ同じである。 ○「実験の結果から、問題の解決に必要な情報が取り出しやすく整理された記録を選ぶ」問題では、正答率が84.5%で全国平均より10ポイント高かった。 ●「実験で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えを記述する」問題では、全国平均とほぼ同じであるが、正答率が34.0%と低かった。また、無解答が13.4%であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験の結果から分かることを根拠を明確にしてノートに記述させたり、友達に分かりやすく説明したりする場を設け、全員が自分の考えを記述できるように指導する。 ・問題に対するまとめを行う際に、結果を具体的な数値として学級内で共有し、何を結論の根拠としているのかを明確にしなが、より妥当な考えを導き出せる学習活動を取り入れる。
「粒子」を柱とする領域	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は62.3%で国、市の正答率とほぼ同じである。 ○「予想と結果を基に問題に対するまとめを検討する」問題では、正答率が67.0%で全国平均を4ポイント高かった。 ●「メスシリンダーの名称を書く」問題では、正答率が62.9%で全国平均より5ポイント低かった。特に無解答が14.4%と多い。また、「メスシリンダーに入れた水の量を正しく読み取る」問題では、正答率が64.9%で全国平均より5ポイント低かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験の予想と結果については、今後も話し合いを通して再検証することで、科学的思考を高めていく。 ・実験で器具を使うときには、器具の名前の確認をさせるとともに、器具の扱いだけでなく、手順や操作の意味についても考えさせることで、適切な使い方を理解できるように指導する。
「生命」を柱とする領域	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は77.3%で国、市の正答率とほぼ同じである。 ○「昆虫の体のつくりの理解」の問題では、正答率が79.4%で全国平均を6ポイント上回っている。 ○「見いだされた問題を基に、観察の記録が誰のものであるか選ぶ」問題では、全国平均とほぼ同じであり、正答率が95.9%と高かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の予想や仮説をもとに、繰り返し観察したり、他者に説明したりする活動を取り入れるなど授業展開を工夫することや、実物を観察する場面やICTを活用する場面を使い分けることで理解を深められるようにする。 ・自然の事物・現象を複数の視点をもって比較することで、差異点や共通点を見つけ、問題を見いだす場を設定する。
「地球」を柱とする領域	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は66.6%で国、市の正答率とほぼ同じである。 ○「水是水蒸気になって空気中に含まれていることを理解する」問題では、正答率が75.3%で全国平均より13ポイント高かった。 ●「夜の気温の変化について、他者の予想を基に、記録の結果を表したグラフを見通して選ぶ」問題では、「予想を基に結果を見通すことができなかった」解答率が17.5%と高かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・知識をより深く理解できるようにするために、問題解決を通して習得した知識を使って、日常生活との関わりの中で捉え直す場面を設定する。 ・話し合いを通して、自分の考えとは異なる他者の予想を確かめる場合に得られる実験の結果を見通す学習活動を取り入れる。

宇都宮市立豊郷南小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

- 「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか」の問いに対する肯定的割合は80.8%で全国平均を9.3ポイント上回った。携帯電話等の使い方について企業等の出前講座を保護者の方にも参加いただき、学校だけでなく家庭と協力して指導を継続していく。
- 「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の問いには、70.2%の児童が「当てはまる」と回答し、98.1%の児童が肯定的回答をした。全国平均を「当てはまる」が23.9ポイント、肯定的割合が11.0ポイント上回った。引き続き、児童のよさを認める指導を継続し、自己有用感を高めていきたい。
- 「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」の問いに対する肯定的割合は81.7%で全国平均を13.6ポイント上回った。いじめや不登校が起きないように積極的に児童に声かけをし、児童との信頼関係づくりを継続していく。
- 「平日、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか」の問いでは、1時間以上と回答した児童は70.2%で全国平均を10.8ポイント上回った。家庭学習の時間を60分以上と指導している成果が見られる。自主学習ノートや一人一台端末の活用をさらに勧め、主体的に学習に取り組む態度を養っていきたい。
- 「5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」の問いでは、週3回以上と回答した児童が80.8%で、全国平均を22.6ポイント上回った。一人一台端末が導入され、当初は調べ学習や新聞作りなどで活用していたが、児童が機器の取扱いに慣れてきたことや教員の研修等により意見交換する場面やまとめ、発表する場面でも活用できるようになった。「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」の問いにおいても肯定的割合が81.7%で全国平均を16.2ポイント上回った。今後も様々な教科でICT機器を活用した学習活動の充実を図っていく。
- 「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか」の問いに対する肯定的割合は86.5%で全国平均を13.0ポイント上回った。今後も、互いのよさを認め合う指導を継続していく。
- 「平日、1日当たりどれくらいの時間、読書しますか」の問いでは、「全くしない」と回答した児童は36.5%で全国平均を10.2ポイント上回った。朝の活動の時間に読書をしたり、家庭読書、図書室の利用を勧めたり、本に触れる機会を増やしていく。
- 「5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」の問いに対する肯定的割合は57.6%で全国平均を7.8ポイント下回った。話し合いの場を意図的に設定し、言語活動の充実を図る。

宇都宮市立豊郷南小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
主体的・対話的な学習を通して、読解力・表現力を高める国語科指導に取り組む	・読み取ったことと関連付けて、自分の意見や考えを書く。 ・相手の考えと自分の考えを比べながら聞く。 ・自分の考えを進んで表現し、相手のよさを取り入れながら、考えをまとめる。	・国語「書くこと」領域において市の平均と比べ、1.0ポイント低い。 ・質問紙調査「国語の問題で解答を文章で書く問題をどのように解答したか」に対し、「最後まで書こうと努力した」と回答した児童の割合が73.3%で県の平均より7.5ポイント低い。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
国語、算数において問題を解く時間が十分でなかった児童が国語で35.7%、算数で11.9%であった。文章を書くことや理由を説明することに時間を必要としている。	・様々な条件のもとで文章を書かせる。 ・求められている答えの解き方を説明する。	「思考・判断・表現」の授業において自分の考えを書かせたり、理由を説明させたり、自分の考えを表現する学習活動を位置付ける。